

平成 30 年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
37202	生活援助技術 I Care technique I	木村 典子 近藤 美香	専門	2	選択	1・2 年 前期
<b>科目の概要</b>						
<p>高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なり、その違いを認識して、コミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識して介護職として取るべきでない行動を理解できるように授業を展開していきます。</p> <p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能を踏まえて、安全な食事、移動・移乗の援助が実施できる知識・技術が修得できるようにしていきます。また、尊厳を保持し、その人なりの自立について、生活との関連で考えていきます。介護職員初任者研修課程の資格の取得、将来、介護の現場で働いていくために、必要となる知識・技能の修得を目指していきます。</p>						
<b>学修内容</b>			<b>到達目標</b>			
<p>① 生活歴を踏まえた家事援助を学ぶ。</p> <p>② 家庭内で多い事故を踏まえて、快適な環境整備、福祉用具の使い方を学ぶ。</p> <p>③ 食事に関連したところからだのしくみと自律にむけた介護技術を学ぶ</p> <p>④ 移動・移乗に関連したところからだのしくみと自律にむけた介護技術を学ぶ。</p>			<p>① 生活歴を踏まえた家事援助を列挙できる。</p> <p>② 快適な環境整備(シーツ交換)を実施できる。福祉用具である杖、スライダーが使える。</p> <p>③ おいしい食事のための介護技術を習得する。</p> <p>④ 自然な動きを活用した体位変換、安全な車いす移動の介護技術を習得する。</p>			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>				
前に踏み出す力	主体性	技術練習に取り組んでいる。 必要な知識についてさらに深めた理解するために、教科書文献を使って、自己学習ノートを作成できる。				
	働きかけ力					
	実行力	目標を設定して、最後まで、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。				
考え抜く力	課題発見力	援助者体験、介護者体験を踏まえて、技術を探求することができる				
	計画力					
	創造力	課題を考えると、自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。				
チームで働く力	発信力	グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できる。				
	傾聴力	グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。				
	柔軟性					
	状況把握力					
	規律性	無断欠席、遅刻、私語など講義に支障をきたす行動をせず、欠席した場合の分の補充ができるよう、クラスのメンバーなど聞き、行うことができる 介護技術を行うのに適切な恰好で行うことができていた。(髪、爪、くつ、ズボン)				
	ストレスコントロール力					
<b>テキスト及び参考文献</b>						
<p>テキスト:長寿社会開発センター介護職員初任者研修テキスト 三巻</p> <p>参考文献:なし</p>						
<b>他科目との関連、資格との関連</b>						
<p>他科目との関連:生活援助技術Ⅱ、生活支援技術演習、介護総合実習</p> <p>資格との関連:介護職員初任者</p>						
<b>学修上の助言</b>			<b>受講生とのルール</b>			
<p>実技を行うにあたり、こころと身体の基礎的な知識が必要なため教科書、配布したプリントにて復習を行うこと。</p> <p>筆記試験は生活援助技術の根拠について問います。これは、技術の原理・原則にあたります。</p> <p>実技試験は原理・原則を踏まえて行っているかをチェックします。</p>			<p>・授業を欠席したら、欠席分の課題を出して、補充を行います。欠席はしないこと。</p> <p>・介護職員初任者の資格を取得には、評価が「良」以上あること。</p> <p>・授業中の私語は慎み、積極的に授業に参加すること。配布プリントや資料は講義ノートに合わせてまとめておくこと。覚えることが多いので、こまめに資料を読んで授業内容を整理すること</p> <p>・実技を行うため、爪は切り、長髪は縛り、動きやすい服装が必要となります。</p>			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
筆記試験	30	①	✓	筆記試験は生活援助技術の根拠について問います。これは、技術の原理・原則にあたります。 ・生活援助の基本 ・移動の援助(杖、車いす) ・快適な生活環境 ・良肢位、安楽な体位 ・安静の弊害、体位変換
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
小テスト	20	①	✓	毎回の小テストの点数を平均して判定する。 ①授業内容を理解できているか確認する。 ②穴埋め問題と簡単な分析を中心に出題する。 ・出題範囲は、各時点までの授業で学習した内容とする。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
レポート				
成果発表 (口頭・実技)	40	①		実技は原理・原則を踏まえて行っているかを評価表に基づきチェックします。 シーツ交換(三角コーナー、四角コーナー、しわ) 体位変換(慣性の法則、重心、小さくする) 車いす移動(点検、適切な設置、負担の少ない移動)
		②	✓	
		③		
		④	✓	
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	(主体性) ・技術練習に取り組んでいるかをみていきます。 ・必要な知識についてさらに深めた理解するために、教科書文献を使って、自己学習ノート作成の状況をみます。 (実行力) ・目標を設定して、最後まで、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができている。 (課題発見力) ・援助者体験、介護者体験を踏まえて、技術を探求することができている。 (創造力) ・課題を考えるとき、自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができている。 (発信力) ・グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できている。 (傾聴力) ・グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができている。 (規律性) ・無断欠席、遅刻、私語など講義に支障をきたす行動をせず、欠席した場合の分の補充ができるよう、クラスのメンバーなど聞き、行うことができている。 ・介護技術を行うのに適切な恰好で行うことができている。(髪、爪、くつ、ズボン)
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
その他		①		・受講態度(遅刻、欠席、学習意欲欠如、課題やその他の提出物の未提出、グループ活動への非協力など)が見られる場合は減点する。 ・6回以上の欠席は〇(放棄)判定となる。
		②		
		③		
		④		
総合評価割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>秀</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践可能な援助を立案し、知識にもとづいて工夫し、説明でき、模擬高齢者に、安心・安全に介護技術(体位変換、シーツ交換、車いす移動)が提供できる。</li> <li>2. 模擬高齢者役を通して、他のメンバーへ、介護技術について、アドバイスができる。</li> <li>3. わかりやすく、資料を作成して、発表することができる。他者に事前にアドバイスを得て、さらに付け加えをして行うことができる。</li> <li>3. 授業の到達目標から自身の習得しなくてはいけない知識を理解し、自己学習ノートをわかりやすくまとめ、活用できる。教科書、文献など、様々な資料を使って、計画、援助技術が実践できる。</li> <li>4. 筆記試験が90%以上の正解率である。</li> </ol> <p>優</p> <p>上記の1,2ができていて、総合評価で80%以上である。</p>	<p>良</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模擬高齢者へ援助が原理原則を踏まえて、提供できる。(体位変換、シーツ交換、車いす移動)</li> <li>2. 模擬高齢者へ援助をする際、高齢者の特徴を考えた、声かけができる。</li> <li>3. 自己学習ノートをまとめることができる。</li> </ol> <p>総合評価で70%以上である</p> <p>可</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.2の内容が助言のもと、資料を作成でき、発表することができた。</li> </ol> <p>総合評価で60%以上である。</p>



週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	専門職として、高齢者や障害者のコミュニケーション能力は個人により異なり、その違いを認識してコミュニケーションをとることの重要性を学びます。介護におけるコミュニケーションの目的と意義、役割を理解し、円滑なコミュニケーションのための共感、利用者理解、自己覚知、言葉遣い等を学びます。	講義・演習 (担当 )	介護現場で求められる円滑なコミュニケーションをとるために必要なことを列挙できる。	(復習) 専門職としてのコミュニケーションについてまとめる。	60	主体性 課題発見力 規律性
2週 /	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は個人異なることを理解し、共感、受容、傾聴的態度等、基本的なコミュニケーションを理解します。家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と、介護における相談援助技術の重要性を理解します。言語・視覚、聴覚障害者、失語症・構音障害者、認知症の人とのコミュニケーションの方法と留意点について学びます。	講義・演習 (担当 )	介護の対象となる人の特徴とコミュニケーションの工夫の仕方を述べるができる。	(復習) 授業の資料を振り返る	60	主体性 課題発見力 規律性
3週 /	チームにおけるコミュニケーションの有効性、重要性、チームアプローチの効果と意義について学びます。介護職として観察と情報収集の方法を学び、記録等を作成する必要性を理解し、介護実践において記録の重要性および意義と目的、要領を学びます。	講義・演習 (担当 )	チームのコミュニケーションを円滑にするための手段を述べるができる。	(復習) 授業の資料を振り返る	60	主体性 課題発見力 規律性
4週 /	介護サービスの提供には相互の信頼関係、共感的な理解が不可欠であることを学び、利用者の思い、尊厳、プライバシーを尊重することを学びます。	講義・演習 (担当 )	利用者と介護職との信頼関係を深めるために必要となることについて述べるができる。	(復習) 授業の資料を振り返る	60	主体性 課題発見力 規律性
5週 /	生活と家事の関係について説明していきます。生活支援の一つである家事について説明していきます。事例を用いて、家事の支援について考えています。	講義・演習 グループワーク 発表 (担当 木村・近藤)	家事の種類について述べるができる。 家事支援について述べることができる。	(復習) 事例の調理支援についてまとめる。グループで、役割を決める。	60	主体性 課題発見力 発信力 創造力 規律性
6週 /	家事の支援の一つである調理を実際の事例に基づき実践していきます。5 回目の課題を提出しないとこれは実施できません。	小テスト 講義・演習 グループワーク 発表 (担当 木村・近藤)	調理支援過程を系統だてた説明ができる。	(復習) 実施した調理支援の振り返りをレポートする。 (予習) 家で介護食をつくり、資料にまとめる。	60	主体性 課題発見力 規律性 実行力
7週 /	過ごしやすい環境に説明をして、シーツのたたみ方、毛布のたたみ方を説明しています。	演習 (担当 木村・近藤)	作業効率を考えた適切なシーツのたたみ方ができる。	(復習) シーツのたたみ方の練習 (予習) 快適な生活環境についてまとめる。家での掃除方法	60	主体性 課題発見力 規律性 実行力
8週 /	バットメイキングを行います。	演習 (担当 木村・近藤)	くずれにくいヘッドメイキングができる。	(復習) 空き時間を活用して、介護実習室でバットメイキングの練習 (予習) 市販されている消毒薬(アルコール、次亜塩素酸、逆性せっけん)の効用を調べる	60	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	寝たままの状態でのシーツ交換を実施します。	演習 振り返り (担当 木村・近藤)	ベット上に高齢者がいた状態でのシーツ交換が実施できる。	(復習)空き時間を活用して、介護実習室でシーツ交換の練習 (予習) 人が寝ているときと寝ていないときの違いについてまとめる。	60	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
10週 /	食事と心身の関係の説明し、高齢者が抱えやすい食の問題を説明します。嚥下障害のある人の食事の援助について説明をします。	小テストと解説 講義・演習 グループワーク 発表 (担当 木村・近藤)	高齢者が抱えやすい食の問題を説明できる。	(復習)高齢者が抱えやすい食の問題をまとめる。 (予習) 高齢者に適した食事の在り方	60	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
11週 /	目隠し、寝たままでの食事の援助技術について学びます。	小テストと解説 演習 グループワーク 発表 (担当 木村・近藤)	おいしい食事ができるための食事の援助を説明できる。	(復習)実施した食事援助の振り返りをレポートする。 (予習) 福祉用具としての移動用の道具の特徴を調べる。	60	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
12週 /	移動・移乗に関連した心身について説明をします。移動の道具として福祉用具について説明をします。寝たきりでの弊害について説明をします。	小テスト 演習 グループワーク 発表 (担当 木村・近藤)	寝たきりでの弊害について説明できる。 杖、スライダを使うことができる。	(復習)ボディメカニクスについてまとめる。 (予習) 廃用性症候群について調べる。	60	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
13週 /	体の自然な動きを利用した体位変換、移動の技術を学びます。安楽な体位の保持について学びます。	小テスト 演習 グループワーク 発表 (担当 木村・近藤)	体の自然な動きを利用した体位変換ができる。	(復習)空き時間を活用して、介護実習室で体位交換の練習 (予習) 安楽の体位を保つための工夫を調べる	60	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
14週 /	臥位から座位、車いす移動技術について学びます。 応用編として、車いすから便器への移動についても行っていきます。	演習 グループワーク 発表 (担当 木村・近藤)	車いすを使う時の注意点が述べられる。 麻痺を考慮した車いす移動ができる。	(復習)空き時間を活用して、介護実習室で車いす移動の練習 (予習) 事例の高齢者の援助計画を立てる。	60	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
15週 /	食事、ベットメイキング(環境整備)の技術確認をします。	演習 (担当 木村・近藤)	根拠がある移動、ベットメイキングの技術ができる。	(復習)技術試験の振り返りをする。	60	主体性 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力



